



# Angel's Voice

## パイプオルガンに魅せられて 神戸教区招聘オルガニスト セシリア 井原 由紀

初めてパイプオルガンの音色を耳にした時の衝撃、これは今でも忘れることができません。いつか自分も弾くんだ、という強い思いを抱いたまま長い年月が経ち、やっぱり弾く機会がなかったなあ、と後悔していた頃に、ピアニストとしてフランスに渡りました。そこには、数多くの大きな教会、そして大オルガンが存在し、オルガン・コンサートも沢山企画されています。世界的に有名なオルガニストの方々の演奏を、いつも聴きに行ける環境、これほど贅沢なことはありません。私は、毎週のようにその荘厳な響き、宗教的な調べに魅せられ、私の求めていた音楽がここにある、と思いました。今思えば、とても遅い出発でしたが、その後、パリとロンドンでオルガンの勉強をし、仕事をする機会にも恵まれました。

この遅い出発が障害になることもあり、その悔しさがきっと今の私の原動力になっているのでしょう。オルガンのある所へならどこにでも、という勢いで、移動の多い生活をしており、毎年ヨーロッパ公演も続けています。これまでにフランス、イギリス、ドイツ、ルクセンブルク等で演奏していますが、長いフランス滞在中に親しんだフランスのロマン派の音楽がお気に入り、カヴァイエ・コル（著名なオルガン製作者）の巨大なシンフォニックオルガンで弾くのが、1番の楽しみです。ただ、ヨーロッパのこれらの巨大オルガン、鍵盤が5段もあるところも珍しくありませんし、椅子の高さの調節ができない所が多いので、小柄な私はいつも落ちそうになりながら弾いています。また、演奏会のリハーサルは、たった1人で大聖堂の夜の暗闇の中、ということも珍しくありませんが、これにはちょっと怖いものがあります。

ヨーロッパ滞在中に、教会オルガニストのピンチヒッターを頼まれることもあります。ロンドンもここ神戸教区と同じく、オルガニスト不足の問題を抱えているのですが、夏のパリでは、オルガニスト達が

ヴァカンスに出てしまうので、一時的に不足することがあるようです。こんな時、さすがフランスだなあ、と感心してしまいます。

神戸聖ミカエル大聖堂にパイプオルガンが入って半年以上が過ぎ、また私も少しずつ神戸の空気に染まってきた、ミカエルのオルガンを弾くと、ああ帰ってきたなあ、としみじみ感じるようになりました。ミカエルでの私の口癖は、「倒れるまでやります。」オルガンが弾けるのがあまりに嬉しくて、練習し過ぎて、本当に倒れていることもあります（笑）。

ミカエルのオルガンは、イギリス・ロンドンのマンダー社製なのですが、奏楽に適したオルガンだな、という気がしています。聖歌やチャントの伴奏をしている時、大聖堂内の歌声と一体化して、とても素晴らしい響きになっています。ちなみに、私は先頃、ミカエルのオルガンの故郷であるマンダー社を訪れる機会に恵まれました。マンダー社長にご案内いただいたのですが、神戸教区の皆様にもくれぐれもよろしくとのことでした。

私はオルガンによって礼拝を支え、そして奏楽によってお祈りさせていただけるという、とても貴重な機会をいただいています。と同時に、ヨーロッパの本場の音楽をお届けする機会にも恵まれています。ミカエルでは、いつも多くの方々から、温かい励ましのお言葉をいただいています。私も音楽を通して色々なことをお伝えできたらいいな、と思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

追記：神戸ミカエル大聖堂では、毎月第2日曜日に、神戸教区の方々を対象にオルガン・レッスンを行なっています。教会オルガニストの養成が主な目的で、奏楽担当者や希望者であれば、どなたでもご参加いただけます。また、もっと多くの方々にミカエルのオルガンを身近に感じていただけたら、ということで、初心者の方も募集しておりますので、お気軽にお申し込みください。

## マンダーオルガンってどんな楽器？

オルガンを設置する当初から、大変ご尽力をいただいているマンダーオルガン社の公認ビルダー・大久保壮介(そうすけ)さんにお話しをうかがいました。大久保さんは、ロンドンの工房で直接オルガン製作にあられたビルダー(オルガン職人のこと)のお一人です。オルガンの製作、組み立てに始まり、音の整音など様々な作業に関わり、今後も定期的にメンテナンスや調律などオルガンの手当をされます。

Q 1. ミカエル大聖堂のマンダーオルガンは、国内で8台目と聞いていますが、他にはどこに設置されていますか？

大久保氏(以下、A): 完成年順に、

- 1、桃山学院大学チャペル(和泉市)、
- 2、安土町文芸セミナリヨ・コンサートホール(近江八幡市)、
- 3、浦上天主堂(長崎市)、
- 4、日本キリスト教団都筑讚美教会(横浜市)、
- 5、日本キリスト教団豊中教会(豊中市)、
- 6、札幌ブランバーチチャペル(札幌市)、
- 7、仁川学院(西宮市)、に設置されています。

Q 2. オルガンの生まれた国によって、また製作会社によってオルガンの音色は様々ようですが、マンダー社のオルガンの音色はどのような特色をもつのでしょうか？

A: 身体を包み込むような温かみのある音、長時間聴いても疲れな、やわらかく優しい音ではないかと思います。

Q 3. ミカエル大聖堂のオルガンには1022本のパイプがありますが、正面の見えている金属のパイプ以外にも、大小たくさんパイプが奥に収められていますね。丸い筒状の金属パイプの他にも、四角錐の木製のパイプもあるようですが、パイプにはどんな材質が使われているのですか？

A: 金属のパイプは錫と鉛の合金から出来ています。いわゆる「はんだ」です。きらびやかな正面のパイプは錫の含有率が75%と高く、残り25%は

鉛です。

内部にあるパイプには錫55%と鉛45%、錫35%と鉛65%の素材が使われ、錫の含有率が上がると明るい音になり、鉛が多くなると暗い音になるので、ストップ(注)の種類によって使い分けています。またこのオルガンの木製のパイプには「松」が使われています。

注: ストップとは、オルガン正面の左右についているドアノブに似た形状のもので、音色と音の高さを決める装置。これを引き出し、鍵盤を押したとき初めて音が出る。

Q 4. マンダー社の工房はロンドンにあるそうですが、その歴史、工房の様子を簡単に教えてください。

A: マンダー社は1936年にノエル・マンダーによって設立され、第二次世界大戦で被害にあった数多くのオルガンを修復して事業を拡大しました。以来、世界中にオルガンを輸出しています。

1983年、息子のジョン・マンダー(現在の社長)が2代目として就任しました。

東ロンドン Bethnal Green にある、廃校となった19世紀ヴィクトリア時代のセント・ピーターズ教会・付属学校の校舎がマンダー社のオルガン工房になっています。

かつて教室であった部屋が、パイプ製作や木材加工の部屋などに、チャペルであった部屋が設計室として、また隣に現存する教会の地下室は材木倉庫として使われています。

Q 5. マンダー社のオルガンは、英国内でも有名な大聖堂・教会に設置されているそうですが、どんな教会にありますか？

A: 大聖堂では、カンタベリー大聖堂、チチェスター大聖堂、セント・ポール大聖堂など、教育機関では、セント・ジョンズ・カレッジ(ケンブリッジ大学)、モーダリン・カレッジ(オックスフォード大学)、イートン・カレッジ、ウィンチェスター・カレッジなどのチャペルに設置されています。

Q 6. オルガンはピアノのような世界共通の規格品ではなく、受注生産による楽器ですね。つまり顧客の要望で色々なサイズの物が作られるわけですが、ミカエル大聖堂の物に比べ、もっと大きなサイズのオルガン、また小さなサイ

ズのオルガンにはどんな物がありますか？

A：小さいものでは、左手でふいごを操作して風を送り、右手で鍵盤を弾くポルタティブオルガンと一段鍵盤3～5ストップ、足踏みオルガン（リードオルガン）のように移動が可能なポジティブオルガンなどがあります。

それ以外は備え付けのオルガンとなり、設置される場所の規模などによって大きさやデザインが変わります。大きなものでは5段の手鍵盤と足鍵盤、パイプの本数は7,000本以上にもなります。

Q7.電子オルガンと違って、パイプオルガンは大変デリケートな楽器で設置後も定期的なメンテナンスや調律は欠かせない作業のようですが、なぜそんなに手入れが大変なのですか？

A：パイプの音の高さ（ピッチ）は気温の変化によって変わります。気温が上がればピッチが高くなり、気温が下がれば逆に低くなります。それらは特殊な工具でパイプの形を変えて調律しますが、パイプはとても柔らかいので慎重に作業しなくてはなりません。

また、オルガンケースや内部の部品には木材がふんだんに使われていて、湿度の変化によってそれらが微妙に動くのです。

環境の変化にとっても敏感な楽器ですので、オルガンビルダーは定期的に内部に入り、調律と調整を行う必要があります。

しかしこのようなデリケートな楽器であるからこそ、あのような美しい音色が生まれ、人々を魅了し続けるのだと思います。

（質問者：原田里香子）

## 行事報告

2013年

9月29日(日・聖ミカエル日) オルガン奉献・祝別式  
オルガン：教区招聘オルガニスト井原 由紀氏

11月22日(木) 神戸市混声合唱団演奏会  
神戸ビエンナーレ主催・神戸市混声合唱団の演奏会がミカエル大聖堂を会場として開催されました。  
オルガン：安田 哲也氏

11月23日(金) 第81回定期教区会ヌーンコンサート  
オルガン：井原 由紀氏  
昼休憩中に、ミニコンサートを開催しました。

曲目：F.メンデルスゾーン 前奏曲とフーガ ハ短調 他

12月21日(土) パイプオルガン奉献記念

クリスマスコンサート

オルガン：井原 由紀氏

トランペット：石原 翔氏

当日集まったフィリピン台風の被害のための義援金・  
¥100,970 は管区事務所へ送金しました。

曲目：J.S.バッハ 幻想曲とフーガ ト短調 BWV542

H.パーセル トランペットヴォランタリー

A.ギルマン スコットランドのノエル 他



クリスマス・オルガンコンサートにて

2014年

2月10日(月)～11日(火・祝)

参事会主催・礼拝奉仕者研修会(オルガン研修)

講師：松原 晴美氏(大阪堺復活教会オルガニスト、  
桃山学院大学オルガニスト)

参加者：16人(12教会)

3月21日(土) 聖職接手式(池澤隆輝執事、  
杉野達也執事、ポール・トルハースト司祭が誕生)

オルガン：井原 由紀氏、

聖歌隊指揮&ソプラノソロ：喜多 ゆり氏

大聖堂聖歌隊

## パイプオルガン委員会主催オルガン・レッスン

2013年10月(18人)、11月(9人)、12月(13人)

2014年1月(6人)、3月(7人)、4月(11人)

現在、神戸伝道区内のオルガニストとその予備軍が井原氏の指導のもと、レッスンを受けています。年代、経験は様々ですが、皆さんとても熱心に参加されています。神戸伝道区以外の方も歓迎です。お問合せは神戸教区事務所まで。

## 楽譜紹介

2月に行われた礼拝奉仕者研修会(オルガン研修)での、

要望に応え、講師・松原氏推薦の本をご紹介します。

♪Discover The Organ Level 1～5

Edited by WAYNE LEUPOLD

Wayne Leupold Editions, Inc.

レベル、目的別に「ベーシックオルガンレパートリー」「モダンキーボードテクニク」など、たくさんのシリーズがでています。

♪First Organ Book

Edited by WAYNE LEUPOLD

Wayne Leupold Editions, Inc.

♪オルガンペダル独習8週間-速習:ピアノからオルガンへ

A. B. ジェニングス著

パックスアーレン(株)

♪オルガニスト・マニュアル オルガン奏法と作品集

R. E. デイヴィス著

パックスアーレン(株)

日本語訳で手と足のオルガン奏法が解説されています。他にもオルガンのしくみ、パイプの種類の説明などが詳しくまとめられています。また初心者～中級者のための、短い様々な楽曲が収められています。

それぞれオルガン教則本です。普段の練習や礼拝奏楽の選曲の参考にしてください。

**コンサート予定**

5月10日(土)18:00～ Chor Meise 演奏会

～パイプオルガンの響きとともに～

主宰・指揮：前原 克彦氏 合唱：コールマイス

オルガン：片桐 聖子氏(神戸女学院オルガニスト、

神戸教会オルガニスト)

曲目：M. デュリュフレ「グレゴリオ聖歌による4つのモテット」J. ラター「アンセム集」

木下牧子：「光はここに」

入場料¥1,000 チケット発売中

お問い合わせ：神戸教区事務所 078(351)3463

6月14日(土)14:00～ 神戸市・リガ市(ラトビア)

姉妹提携40周年記念コンサート

神戸市混声合唱団と姉妹合唱団提携を結んでいる

ラトビア・リガ市のリガ室内合唱団「アヴェ・ソル」がジョイントコンサートを行います。

詳細未定

お問い合わせ：神戸教区事務所

10月25日(土)15:00～

パイプオルガン奉獻1周年記念コンサート

オルガン：井原 由紀氏

入場料¥1,000 チケット8月発売予定

主催：パイプオルガンコンサート実行委員会

～ オルガン・レッスン風景 ～



レッスンを受ける皆さん



指導する井原氏

**【編集後記】**

オルガンが設置されて、あっという間に半年以上が過ぎました。レッスンに参加される皆様の熱意を肌で感じています。また同時にオルガンを使用する行事依頼など、初めての出来事にも直面しています。主の導きによって、御心に適う、よき奉仕者が育ちますように、お祈りください。

パイプオルガン会報紙事務局 (神戸教区事務所)

〒650-0011

神戸市中央区下山手通5丁目11番1号

☎078-351-5469 fax(078)382-1095